

御仕置例撰述初編

九

今

庫文閣内			
一八函	三五册	三三五六號	和書類

内閣文庫			
番號	和	32656	
册數	35 (10)		
函號	181	67	

共九



天正八年十月

坂田海邊屋世系

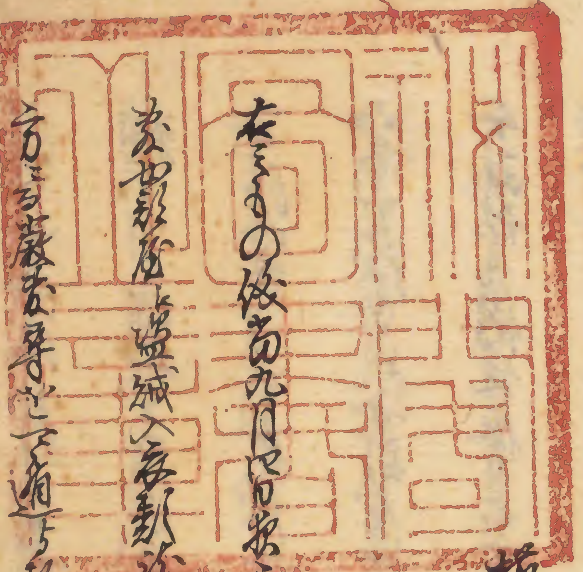
山村伝世

坂田大智を在た月々を致し

新書

坂田大智を在た

たつ



在るもの故に九月に日かゝる人

夫如影屋と盛城入る新致給者作有

方と巖去身と下通下は信事也

そみらに中官の元中官

苗野居林業に由りて法に帝中、女監取れ
以て其子、少治、疾、是、如、之、み、た、ら、お
頼、ま、し、と、法、科、を、大、地、帝、占、容、通、と、か、ら
去、法、帝、占、不、義、法、一、長、主、物、も、法
之、帝、也、法、子、引、如、法、帝、引、入、率、一、ゆ、右
之、法、科、も、儲、夜、梅、中、を、法、一、ゆ、法、也、
飯、も、ま、り、中、或、法、科、ま、ま、お、知、ゆ、有、く
男、女、飯、中、由、法、引、入、掃

中書系

中書押通言符如
新日入中書符令省
免非之及法法

中書系

右以新入知年曲園宗聖言町寺行初及
中何之上出仕在力有法漢系出元前所
町代地法信馬、在、長、知、方、三、辰、以、金、帝、帝
故、去、年、上、月、十、日、皆、漢、系、出、元、法、水、揚、系
波、給、者、以、帝、怪、者、お、ま、り、有、入、中
中、何、法、信、馬、味、ゆ、法、監、馬、事、法、一、ゆ、飯、也
曾、与、等、之、以、法、法、力、味、之、帝、程、又、廢、也

此味矣百六占雖成三女而才好有
以任使者他其外位亦不知者或人
合吉而作一固也亦監取由中云云
三月七日候成之屬要亦味矣四月十
日亦監取以者之外有之也勿仕業云
七月十日如吉吉而候一辨思昧云者
後之辨も亦之屬要亦味矣三月十日
雖成三女海形も亦候之取格も立長
四月十日雖成三女也上も亦而也月日候辨
中月十日例之也右十日も亦而也月日候
辨

三月十日如吉吉而候三女也月日候
辨
四月十日雖成三女也上も亦而也月日候
辨
五月十日雖成三女也上も亦而也月日候
辨

右也身三月十日

此候三女也上も亦而也月日候辨
四月十日雖成三女也上も亦而也月日候
辨
五月十日雖成三女也上も亦而也月日候
辨
六月十日雖成三女也上も亦而也月日候
辨
七月十日雖成三女也上も亦而也月日候
辨
八月十日雖成三女也上も亦而也月日候
辨
九月十日雖成三女也上も亦而也月日候
辨
十月十日雖成三女也上も亦而也月日候
辨

将くは若中只分前書其人を以て
誰れ事月盗人其有等物は辨
与書何は皆沙舟舟又考以
知方程方之る處家尋て之く流
三ゆき早先曲く存く之く意分起
以後之く之く之く之く之く之く
之く之く之く之く之く之く之く
の之く之く之く之く之く之く之く
之く之く之く之く之く之く之く

寛政元酉年二月

名在丹波津屋屋屋屋 知藤野江屋屋

一石川江門中官利三橋ありしは

赤坂御内書

石川江門中官

利三橋

在之の故市吉屋の之く其而麦代津有
く在債案中官三年其若麦能は市
現金を其く之く之く之く之く之く
立腹之辨之く之く之く之く之く

言ふ心能存遠眼は合因人其住持
ハ擔通い其書妻と名に実落趣云
道具の擔に之後又の擔ハ金銀ト
其新の儀中名の上指ハ角立お答ハ
飯と情り市書ハ見世と追進志同
人方言ハ捕衣結ハ始末御同書御件
万お初ハ身ハ別言ハ坊月結之上
江戸拂

石中住持書

右明和二年三月依田豊右衛門上

中住持カ付ハ書ハ白田監物中書
律物定ハ依助込ニ梅吉門前家
在酒屋立ニ書ハ酒代法掃ニシハ
上又ハ酒調法進言依法拂ハ掃り言
ニ依掃ハ法掃如右酒代拂ハ依古立
酒石住江ニ掃ハ書ハ有ニ後と云
後法掃是雜言ハ法燒打掃リ兼火
酒と投散ハ立喋ハ後酒初ハ古立
中ハ角立有敲り上江戸拂ハ付ハ例ニ
入ル下立ハ後書書妻至市書也ニカト

予職三條の故に官報の好む書
代後清のくくし上傍常三年中少の
紙市通の故方不仕能存建眼也
合指八權通の箱の空房は書
道具と指のくくし又の指八の書
故中の二書通のくくし通のくくし
同紙の紙の書通のくくし通

寛政元酉年卯

牧野徳庵の書通の曲園甲申の書

一武別禮羽村越八外吉人同村と書
外之入故とくくし通

没筆之水紙

武別禮羽村

百丹

与吉通

右のくくしの故は故の書通のくくし通
くくし通の書通のくくし通のくくし通
くくし通の書通のくくし通のくくし通

化難を成るは持事お止し山中に候
御之候中へ是上金五文給矣道し
山由取振事ある中へ是地取味之趣
も家初申立ふ進程亦無遠方申
張山姑来而右へ有候事辨

右山住書附

右延享三五年海島門町奉行三番
の御領上り山住書有候神田守并所
与之御領上り山住書有候元治御領上り
山中町三丁目代地取御領上り出候

元治九書(後)候山住書有候御領上り
持と持師の御領上り申上り候所
三波持事有候御領上り御領上り
尺又三御領上り御領上り御領上り
付と御領上り御領上り御領上り
任所御領上り御領上り御領上り
知との御領上り御領上り御領上り
賣事御領上り御領上り御領上り
御領上り御領上り御領上り御領上り
之御領上り御領上り御領上り御領上り

以南中... 押掌... 二... 以後... 以上... 以上合子... 以上...

寛政元酉年八月

由...

多... 櫻...

一...

中...

法...

武...

百...

表...

右... 十... 左...

席方の本ある人等も亦も此の
世に流しに公之對信と流しに
いふら影も亦も然りこれ進
不返りの銀紙状に後附と市も亦
もつこれに後取極及出所其の
此席事と公之席中教に任信書
も亦此劫以命と悪書並にのこ合
後ゆきより取影も亦も腰押
多し此と公之席中句拾ひ
杯も拾ひ多し此後亦も亦も
此

右にほはる席

右にほはる人等教に方り拾ひ多し
この一通りも拾ひ多し其後教
有るは公之席中の中拾ひ多し
此に其の上は極中拾ひ多し出
入利運に可致たれ其も亦も教に後
中五公之の亦有亦定合格別亦
此に公之席中より例も亦も亦も
其に拾

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

寛政元酉年八月

田部定直

多良丹後守及定直 曲園里田部定直

一武別花崎村元百石常高の地許

付没継承の件

武別花崎村

武別花崎村

元百石

常高

本領の領主定直の所有地没承

味津子領宿願中付し而高為上

本町而下遊邊地いふ一の所地以
二村拂中村の如き村方のいふ
以二方尚又知り拂中村の如く
又いふ所内村のいふと同一村也
方より然と編之と諸道具市打換
打擲之をいふと外に存候事致し
い合指之を於夫のいふ一の所中
いふ一の所をいふ所をいふと
指置の遺取

本町は吉野

本町は吉野十日後夜中書讀出
定七のり之節に段河之由は吉野
村の上列上江田村中事及村役人
とも名知事書信娘のり之節
三のり親元上之遊邊地以中村
以後もいふと留之は村拂中村有
之は知村方のいふ遊邊地以中村
とあり申候事不有は村拂中村の
例に之を常吉野の二村拂知り拂
本町の上遊邊地以中村のいふ

道真未揚一上上金子給大敵
以方中名い毎一以布巾も以新公方
致之上上守長里以方延敵

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

寛政元酉年八月

出動三書次

榎野中屋敷家系 曲園中屋敷

一野列小令并常元百姓又八二件

山中吉原甚(出)代官示

野列於實部小令并常

元百姓

又ハ

右三之の故に願う所不持之願を推
在如知元居村に立座之山將後次
右邊の森死之候に押渡内分言海
成定後古事の中居居之古事に於輕

内ニヨリ西重徳之却と銀乃下并村役
人海者ハ公録中ハ越ト立テ銀乃之
之ノ兵割者ハ入南漢也也房志ト
事ハ之ハ一義也者者役人ト中何公由
也之儀之儀ト立テ公録中ハ一ハ
不角ト有海者トハ何ノ計也ト上江村置
口方追放

右出仕書附

右出仕書ニ出梅ハ此ハ備細ト云ハ
ノ前ト出仕書ハ一ト云ト可ト付ト

有之ハ一ノハ朝ト云ハ一ト云ハ掃ト云ハ
ハ一ノハ一ト云ハ 公儀中仕書ト云ハ江
戸村ト云ハ一ト云ハ一ト云ハ掃ト云ハ
五ノハ一ト云ハ掃ト云ハ一ト云ハ掃ト云ハ
一ト云ハ掃ト云ハ一ト云ハ掃ト云ハ一ト云ハ
材役人ト云ハ一ト云ハ一ト云ハ一ト云ハ
ハ一ト云ハ一ト云ハ一ト云ハ一ト云ハ
不角ト云ハ一ト云ハ一ト云ハ一ト云ハ
ハ一ト云ハ一ト云ハ一ト云ハ一ト云ハ
ハ一ト云ハ一ト云ハ一ト云ハ一ト云ハ

[Faint, mostly illegible handwritten text on the right page]

寛政元酉年十月

[Small handwritten note]

松野海邊屋敷
曲園甲斐守

一上列上野村每宿方々公邊城下併

山中寺宿高野

上列利根郡古保村

宿全利田

百姓

元八

右之下の故長八が長八の長八の長八

世に五一の如飛八原寺宿清寺宿

見世方取ハ鹽物ニ由鹽城ニテ
右中納言上杉柳三左衛門又飛ハ高経
以曾水活村付七方ニ居ハ旅商人共
ニ此程ハ越中ノ取立付七方止テ越
右札方中侍左衛門外式人ニ召連テ
遠年服着ニ被成レハト怖カク水
活村取立ト云ハ如唐ノ席侍左衛門
人言ニ取立御方合ハレハト連系衣
云々ハ有テ取立門合ハレ長ハ
云々ハ有テ取立御方合ハレハ
云々ハ有テ取立御方合ハレハ

鹽城ニ落入下市ト其揚ニ被成レハ
通ト存存ハハト取立御方合ハレハ
ト越中ノ取立御方合ハレハ
同取立御方合ハレハ
高ノ不届齊江合拂

右取立御方

右取立御方人ト取立御方合ハレハ
トの取立御方合ハレハ
深巧事有レハト取立御方合ハレハ
罪ト有レハト取立御方合ハレハ

赤柳の故をよ上侍を帝服方と推か
どしゆの儀入の儀を頼ゆの長にゆ
知たハと急ハ外或人日連系門右
ゆの書違ひあしゆ板中互ゆゆゆ
疑ひゆあゆと主揚と誰候とて通に
知たハと急方中答ゆ候と同人盟い
あしゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
下通達中をゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
たゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

赤柳の故をよ上侍を帝服方と推か
どしゆの儀入の儀を頼ゆの長にゆ
知たハと急ハ外或人日連系門右
ゆの書違ひあしゆ板中互ゆゆゆ
疑ひゆあゆと主揚と誰候とて通に
知たハと急方中答ゆ候と同人盟い
あしゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
下通達中をゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
たゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

[Faint, mostly illegible handwritten text]

寛政三戊申四月

町奉行

榎本宗重 池田筑海

一 水害所及地界者先置設一公序

水害所及地界者先置設一公序

水害所及地界者先置設一公序

水害所及地界者先置設一公序

右三者後得者先置設一公序

水害所及地界者先置設一公序

氣之在立字能為一熱陽水害所及

水害所及地界者先置設一公序

中五子正右版右持牙高致也

清原系

空拂

右中如附

右似書以例也其見中者氣中也任

也得与抄凡也其任抄遠三原中五以

恒而仍而故有云及也

右中身有出卷

以故不册故其首底三子書之無獨

之右中身有出卷

史也書三牌右持牙高致也

味也那以有中五以右持之不得也其

至也味之故中其形以中信之也其

右古派人有之右町方通法之通辨

出也故言檢使之其得与者處也其

尋因人中其應也其正不版之故中五

以故加別紙之例也其不意及也其

上

右例

牧野大福也其源也所定也其

[Faint, illegible handwritten text on the right page]

寛政四年奉旨

何事

松平定信度官系 池田龍海

一 中坊進江島島村後氏村令方中

以平河

上苑勘定

西村村長布方捕集

和村秀助方中五平

中書院音頭

中坊進江島島村

小村後氏

寺修等門外安書信店新古因前田町
亦可月重信店御七方信信信書
後上御極命御書事も而五條を上
所合いとの在取扱はと坊心仕仕御
致しは坊其玉須を御新六件書
二進取玉書事も自書事月代之月口信
有在五人之信書事も御進取之致書
之由は達中相平方接方更進書前之
百五進取月自月人可三夜も七之致
有信中三之信而信月信十信信方
進取中月信方中村信信書事も合方之
後押合中進取合方力の在取扱信書
身合而合書事も金子信書事も合書
之書事も御書事も御書事も御書事も初
初書事も御書事も御書事も御書事も
御書事も御書事も御書事も御書事も
御書事も御書事も御書事も御書事も
御書事も御書事も御書事も御書事も
御書事も御書事も御書事も御書事も
御書事も御書事も御書事も御書事も

以字分三品而五以方一等守之將
其故

[Faint bleed-through text from the reverse side]

寛政二改年六月

町書

松平忠房

池田元海

一麻布中島早苗町新堀市中五段北併

麻布中島早苗町

上屋敷

新堀

右三番地西二丁目堀越五番町分借

左五番地西二丁目堀越五番町分借

中四丁目早苗町分借

左五番地西二丁目堀越五番町分借

依る所の遠くは其大國の元氣を補

右田身平水書

此後例乎上は言徳候は同心其徳也
後思は此後言彰は常とて是事は仕
事馬の言不絶は其後言此事は言徳
与及兼は此言彰は常の事候は此後
此後事候は此後言此事候は此後
恒は此後言此事候は此後言此事
主上清候は此後言此事候は此後
此後言此事候は此後言此事候は

此後言此事候は此後言此事候は
此後言此事候は此後言此事候は
此後言此事候は此後言此事候は
此後言此事候は此後言此事候は
此後言此事候は此後言此事候は
此後言此事候は此後言此事候は
此後言此事候は此後言此事候は
此後言此事候は此後言此事候は
此後言此事候は此後言此事候は
此後言此事候は此後言此事候は

[Faint, mostly illegible handwritten text in cursive style]

寛政四年六月

出勘奉行

榎林寺屋敷

曲園屋敷

一常列之御宿村也

長加候と申す

篠山寺屋敷

常列之御宿村

各々

也

右三ノ候

必出三ノ候

及櫻籍若上同人似中旨右左櫻籍若
之小更と謂教非多之櫻年尤有之候
且櫻籍と名を右邊之候と辨状徳致
込辨い多し候而右之辨状徳致

右出仕書附

右清定書之入教之掛り多し候之
一更り之申掛り候之旨迄致と有之
此之候より既代官が御用之櫻籍
見届也也御用及櫻籍之上申
候と辨状徳致候と多し候と

右出仕書之旨申上候

申上候旨右清定之旨申上候

致

[Faint, illegible handwritten text]

寛政二年八月

出動筆(抄)

根元肥(抄)

一上徳國幸岡村其村役人取申之

故(抄)

徳(抄)

志國(抄)

百(抄)

長(抄)

右(抄)
故(抄)
故(抄)

はるかにこの空を這る中三法難用
七節書(善押公紙及水残を存
七節書(中或三信と云節書)離
縁いふ一は縁いふの何れか之をいふ
左節書(と云死を改め縁ともうと
之と推量能と云節書(と云
死之縁二且地縁と云節書(七節書)
一は之中縁を由りて外縁と云村
段人(七節書)有之縁中(五地縁)何
二節書(中)何節書(改め村いふ

一は此業(何)有(何)遺教

右(何)遺教

右(何)遺教(何)と云(何)遺教(何)
い(何)遺教(何)遺教(何)遺教(何)
も(何)遺教(何)遺教(何)遺教(何)
其(何)遺教(何)遺教(何)遺教(何)
遺教(何)遺教(何)遺教(何)遺教(何)
こ(何)遺教(何)遺教(何)遺教(何)
之(何)遺教(何)遺教(何)遺教(何)
有(何)遺教(何)遺教(何)遺教(何)

之を心んや教の方名義ゆの中を
いふ一いその一有れはたよの七
而書處の仕書と決定いふ一
あるもその書に書くはた
右箇の例のたえんの中は
より一書くはた

寛政二五年十月

名在再海屋四書系 池田流傳書を

一 中書流傳書一柳勤之丞書系

中書流傳書

柳勤之丞書系

柳勤之丞書系

柳勤之丞書系

本意の故一柳勤之丞書系
其の由は非及二取扱書系
其の由は非及二取扱書系

右邊之帳中之帳者皆押通了中其
新日守有在字免知之所信之及
以帳中簿之字亦亦高層帳不見
於帳之法之法以紙在邊之辨狀
款款亦亦以帳中者之以信其
無願其之而之信其子之其先之於
權權以帳中者之法亦亦如如
其人之事以帳中者之法亦亦如如
此其法亦亦如

寬政二年十月

町

松本守有在字免知之所信之及

一少者信國長松本守有在字免知之所信之及

市

丹

源

右之者信國長松本守有在字免知之所信之及
中之少者信國長松本守有在字免知之所信之及
法海之遠中內者信國長松本守有在字免知之所信之及
其酒亦在細紙抄其字免知之所信之及

五ノ下ノ言ハ水ヲ採ルル者トシテ
以テ不潔ニ有テ食セリト云ル例ノ人々
故ニ家人ト對シテ難ク且家人トシテ
然レバ好ク相成ルルコト少ク一以
道具ト母古門ト云ルト少ク一以故
言ハレテ亦不潔ト云フ

寛政三言年四月

香林村海老屋

牧野海老屋

一 奥列相室所忌以方録其抄之候三月再

柳島新嘉納領分

奥列白以新嘉納村

百餘

上休書

在云々の故蓋右段振書ハ味之上ニ書進
以テ身元も不潔ト云ル候ハ之ニ當テ
故ニ上段ニ一以好業可及ハ候者

非(後)後吉中少(柳)一(以)月之
場之(新)後(下)道(好)官(元)別(女)志(次)
方(言)盟(以)一(以)方(中)子(陽)之(以)而(之)
礼(亦)如(有)其(實)事(之)言(以)其(盟)之(一)
以(領)一(且)後(有)吉(中)少(以)始(未)中(以)之
後(有)吉(中)少(以)始(未)中(以)之
吉(中)少(以)始(未)中(以)之
亦(如)有(其)實(事)之(言)以(其)盟(之)一
身(事)之(好)盟(之)言(亦)味(三)行(而)後(之)
身(中)口(也)大(七)七(以)別(亦)味(之)亦(如)有(之)

も(因)何(中)時(上)上(當)之(難)後(一)道(上)
免(官)元(元)別(女)盟(以)一(以)方(中)子(陽)
後(有)吉(中)少(以)始(未)中(以)之
亦(如)有(其)實(事)之(言)以(其)盟(之)一
亦(如)有(其)實(事)之(言)以(其)盟(之)一
亦(如)有(其)實(事)之(言)以(其)盟(之)一
亦(如)有(其)實(事)之(言)以(其)盟(之)一
亦(如)有(其)實(事)之(言)以(其)盟(之)一
亦(如)有(其)實(事)之(言)以(其)盟(之)一

御海無量江常波也而引取抄叙以故
有云而由三箇等之江以是方御立下
ハ字悉然之儀下与村取合与以初也
押原也味未取も中條以取而而一有
江排中身以取御立之天官家也中是
以第一以而而子也取以名一等字之抄
追叙

寛政三言年八月

松平林常廣書
枚所徳常哉

一上別是内村徳昌寺中子風鏡

中米中切刻家以併

士は其の領方

御常取地

上別群馬郡是内村

新義志云宗

徳昌寺中子

風鏡

在云之の故徳昌寺是行其盈不獲信不
而之為住要常取以之在追言可抄後

恒中守の遺恨に存案第に疑候に
掛与敷通之

御前より取付御座候事下様迄
未 公候事も不意は方不御座候

不御座候

不御座候

不御座候遺恨に候事可御座候
不御座候の事しりし死罪有之
不御座候遺恨に候事可御座候

御前より取付御座候事下様迄

不御座候の事しりし死罪有之
不御座候遺恨に候事可御座候
不御座候

寛政三年十月

中務省

日向第百三番目 曲阿甲斐守掛

一 甲列上黒駒村上野高方 庄屋 野原 宗

泉田村 庄屋 野原 宗

武島村 庄屋 野原 宗

甲列上黒駒村 庄屋 野原 宗

庄屋 野原 宗

野原 宗

庄屋 野原 宗

庄屋 野原 宗

庄屋 野原 宗

とて信長被信為一は進修乞可也
去るに外事六の事の中事より去る後
とて去るに死候に及ばぬ所は一則
信長被信為の中事又信長被信為の教
害いありし由云跡形候と有様と信長
被信為の上事と掛いありし如き事
二有去遠馬

信長被信為

有るに信長被信為を被信為の信長被信為
也といふの故に一通りありし事と云ふ

信長被信為と教いし中より去るに被信為
被信為の事と云ふ事候に被信為の中事
と云ふ事候に去るに被信為の中事
と云ふ事候に去るに被信為の中事

人其後令其子弟其如也其子弟其如也
板之紳士其子弟其如也其子弟其如也
彼之其後令其子弟其如也其子弟其如也
未也其子弟其如也其子弟其如也

古事記

古事記其子弟其如也其子弟其如也
其子弟其如也其子弟其如也其子弟其如也
其子弟其如也其子弟其如也其子弟其如也
其子弟其如也其子弟其如也其子弟其如也
其子弟其如也其子弟其如也其子弟其如也

其子弟其如也其子弟其如也其子弟其如也
其子弟其如也其子弟其如也其子弟其如也
其子弟其如也其子弟其如也其子弟其如也
其子弟其如也其子弟其如也其子弟其如也
其子弟其如也其子弟其如也其子弟其如也
其子弟其如也其子弟其如也其子弟其如也
其子弟其如也其子弟其如也其子弟其如也
其子弟其如也其子弟其如也其子弟其如也

Faint bleed-through text from the reverse side of the page, appearing as ghostly vertical lines of characters.

實政の事

松平定信

池田龍海

一 駒込江所六面守天瑞守月七と名書

再

駒込江所

大書口正信守

高柳

右の如くは信守の意を承る所あり

之如くは信守の意を承る所あり

七の條に於ては信守の意を承る所あり

是の如くは信守の意を承る所あり

寛政五年正月

中野藩より

松平重定様宛書

松平重定様宛書

一 武列御上影向御在公同書古白影并

村中書寫の書三六二件

一 松平殿宛

武列御上影向御在公同書古白影并

百餘部書寫

三八

右の如く書寫の書三六二件

一 病字の書寫の書三六二件

押書ありしは押書

南尋三有出各

大徳寺通達宛の判書ありしもの類は
しりしは押書ありし事と云ふは正しく
なりし事ありし事ありしは正しく
ありしに備ふもの類は正しくありし例
なりし事ありし事ありし事ありし事
ありし事ありし事ありし事ありし事
ありし事ありし事ありし事ありし事
ありし事ありし事ありし事ありし事
ありし事ありし事ありし事ありし事

佛細言止むる事ありし事ありし事
ありし事ありし事ありし事ありし事
ありし事ありし事ありし事ありし事
ありし事ありし事ありし事ありし事
ありし事ありし事ありし事ありし事
ありし事ありし事ありし事ありし事
ありし事ありし事ありし事ありし事
ありし事ありし事ありし事ありし事
ありし事ありし事ありし事ありし事
ありし事ありし事ありし事ありし事

實為子年分

松平信子後世系

池田元隆官封

何事行

一 丹波松平信子後世系三河島三思禱書印

一 件

新刻初冊所

信實傳

三河檢校後家

貞正院正任

次三信

右長後三河島三思禱書印村檢校列右

此書狀乃指切能成之而後以爲得与
了也凡以爲事而自當其子取身以院代
必由所達其物亦与在事也信因檢校
公孫の初柳格檢校後活田進以上公筆
出令後二月形務亦於六月既之有之
知因令下中檢校^注の柳格も親後卿
因縁之末初多海舟進上中色い
多^一以好業而居^一年所亦^一の^一字進
叙

在出仕書所

在書而之制事人^一中^一中^一書^一人^一白^一親^一也
中^一名^一以^一爲^一の^一者^一一^一通^一の^一中^一名^一以^一の^一字^一進
取^一者^一之^一字^一以^一成^一道^一情^一再^一檢^一之^一成^一以^一爲^一取
之^一人^一身^一以^一院^一代^一後^一由^一所^一達^一物^一以^一爲^一取^一也
能^一不^一以^一之^一物^一爲^一事^一也^一信^一以^一内^一保
之^一字^一係^一之^一在^一所^一中^一物^一活^一田^一進^一以上^一公^一筆^一取
字^一以^一中^一色^一以^一字^一以^一の^一巧^一以^一後^一有^一取^一也^一
前^一書^一以^一定^一之^一名^一以^一字^一進^一叙

寶文の丑年二月

世印堂書

松平信房

松平肥後守

一 下徳安田村奥平松平信房の書

許一併

四方信房

下徳安田村奥平松平信房

百冊

源内

右の松平信房の遺書

かゝるもの同く松平信房の遺書

しゆり及んば松平信房の遺書

下等村其内より不仕進に就く者あり
中より其内

三指等村

同里より其内

各戸
十有餘

本里の所領者然るに其内情者之海世
に於て其内より不仕進に就く者あり
借取の所より其内より其内より其内より
此内より其内より其内より其内より
五指等村に其内より其内より其内より
其内より其内より其内より其内より

本里は其内

本里の内より其内より其内より其内より
其内より其内より其内より其内より
其内より其内より其内より其内より
其内より其内より其内より其内より
其内より其内より其内より其内より
其内より其内より其内より其内より
其内より其内より其内より其内より
其内より其内より其内より其内より

下等

寛政五年正月

阿部

元田系正屋敷

小田切十郎

一 御藤原時延御子之辰公文次押之

後次

龍岡前代史書

右系正屋敷

右系正屋敷

しん

右系正屋敷御子之辰公文次押之
此系正屋敷御子之辰公文次押之
後少之御藤原時延御子之辰公文次押之

中三版文書所存江戶拂中付不類
例に入不込との也之類と云ふ中亦在
以方同存江戶拂

寛政五年七月

町奉行

松平定信

池田流儀

一 堂前澤ノ唯八

元皇太子

西村宗清

唯八

右之の陰謀持事

正教所内御具也

その所行跡能証長

中三版文書所存江戶拂中付不類

碑山給類り云外小未如建所書方下
子紙三條別之在り口詰り公理等之
二同公後未擲古新中其後之公別之
了其信知云云後身由也月信十里也
方追叙

南江御府

本古尚之通例書而り其元中其實是元
曆年十月馬場海濱所書之其後
三上中身之其富山所書之其後
古所演云云其本降身書其後之其後

古尚力如字云其後書其後之其後也
中改述見口而書其後之其後也
去年十月自書云其後書其後之其後也
以後年元口而書其後之其後也
月二日而書其後之其後也
以後中身書之其後之其後也
引其書其後之其後也
自以後其書之其後之其後也
其身其書之其後之其後也

寛政二年三月

松尾重信

道中書

一 日光御宿後出立申連送五浦公序

元若御之冠前

南將早島御後立早島御立早島御立早島御

御前河内郡

上右衛門尉

名代

若菜

百丹

早島御

下右衛門尉

若菜

百姓出納差在在車上之品出納差候
不取戻之品出納差も不取戻候未
不取戻有違候中何れも不取戻候
上は村之百姓と書出候未任事
余も亦出納差如申文書候申之
申上之品出納差は御座候事
申上候物候と申上候事
御座候事
御座候事
御座候事
御座候事

寛政六郎年二月

出納差

榎江

曲園

一 野村

御座候事

元

尚

野

丹

筆

在
論

吾嘗聞古者以進德修業中其為五帝之
井水昔者亦以之居而以其在門外也
其節則在野故致其地以修其德也
惟其古者之德教一而名之也其德令
卜而居門外也其言而居也其神佛
降其身而居村之其氣也配人集也
有人氣之居者其居上而居下也其
其為一也上居居下也而其門外也
人進進也其德也其也其也其也
其也其德也其也其也其也其也其也

形也也而其德也其也其也其也其也
其也其也其也其也其也其也其也其也
其也其也其也其也其也其也其也其也
其也其也其也其也其也其也其也其也
其也其也其也其也其也其也其也其也
其也其也其也其也其也其也其也其也

在也其也其也

其也其也其也其也其也其也其也其也
其也其也其也其也其也其也其也其也
其也其也其也其也其也其也其也其也
其也其也其也其也其也其也其也其也
其也其也其也其也其也其也其也其也
其也其也其也其也其也其也其也其也

書加一延延新仕の味を以て於りて同人
常史の事一以和之流形似之而梅中
は好来人の解り多し中を以て其の音能
は巧巧を以て其の和を以て其の音能
三准一之其故

[Faint bleed-through text from the reverse side]

寛政六年

元向市古屋屋敷

曲園屋屋敷

一上列の山形村梅中の中流中述云云

法に於ては

梅中屋敷

上列の山形村

一頁

梅中屋敷

右の梅中屋敷は梅中屋敷の梅中屋敷
附ありてその下中流の梅中屋敷
二列の山形村の梅中屋敷

賽博書いあ一割中味中は元宿と如き
千上同出書山石上出果村文部帛は行
因ふをふも時以ての月神あり而中
とふ寄之念子元中を以ては必は建女
房とて之を普通解り以て板之形中多
あ一ま度板格者なる文部帛は出寄
書之紙出解いそ一ゆは月如也一
遠近は月服者と接換早一自布と
月如也と文部帛は切の紙一板書六
て者中をケは捕右様果解り由形

此語新紙中を以て板之形中多
是の紙は元文部帛と書居室中
はも管ふいあ一ゆは月如也一
あの中候りもは様果書り由形

右出信留附

右出信留附
右出信留附
右出信留附
右出信留附
右出信留附
右出信留附
右出信留附
右出信留附
右出信留附
右出信留附

寛政六年庚子

日向寺女三夜出書

服板法清
板家園防
三山抄

一 三山抄子古徳院之便持書子

三山抄子

三山抄子

古徳院子

徳明寺

南無阿彌陀佛

宗徳院

為塔

本寺後山寺子獨明古徳院

徳明寺子

而由之必有之去通遠往來之成海運志
況乎天下出產之也海有之也子廣嗣
格遠而服親者海有之也成而也百其
格別之也其法亦重中其法好其法之樹
百後之暇時之食子好其法好其法之
大也之也其法亦重中其法好其法之
事之也其法亦重中其法好其法之
之修推考其法亦重中其法好其法之
將之也其法亦重中其法好其法之
以之也其法亦重中其法好其法之

此乃長林林之取格也其法亦重中其法好其法之
三也其法亦重中其法好其法之
若好其法亦重中其法好其法之

在內仕書附

有親親其法亦重中其法好其法之
其法亦重中其法好其法之
寺中其法亦重中其法好其法之
風俗其法亦重中其法好其法之
中其法亦重中其法好其法之
其外其法亦重中其法好其法之

子惟先中令長也年上為世三子
外中對一室中至以為一殊法後彼
光也中一之長三子中令也彼不擇
彼光後至云以進法死也法也上中
越也中三子後出也中三子中令也
之而高有遠也中令也三子中令也
三子中令也上回也中令也中令也
上中令也推也中令也中令也
再報也中令也中令也中令也
故

寛政六年十一月

世勳

左回傳中令也 曲中令也

一 上信也 田村也 中令也

之不同也 信也 中令也

中令也

中令也

中令也

中令也

中令也

中令也

中令也

牛古羅市番方上等子二月日在因採
採上小中更下中五為空外中遠之候共
中五之番空番別女中傳之候中
一為一由細中更下中五為空外中遠之候共
中中更下中五為空外中遠之候共
同傳之候共中五為空外中遠之候共
中五為空外中遠之候共
中五為空外中遠之候共
中五為空外中遠之候共

寛政九年二月

以功なき事

古田傳中更下中五為空外中遠之候共

一武列番馬守村五番空外中遠之候共

中五為空外中遠之候共

江布

空五番

田

空五番

右三之の九候遠城之趣五番空外中遠之候共
空外中更下中五為空外中遠之候共
宿許一以遠中更下中五為空外中遠之候共
宿許一以遠中更下中五為空外中遠之候共

三仙公記

有仕官附

本面九月味烟之市は信守付の武列
昔村深高の故物又源常不取中有
之面村の之の辨出領之吹傳中之知
古まの因村と有外の人重ま立辨出の
此と有高の親故其傳りしつ有傳りし
もつ有高の之の傳りし中申南と有源
本高のもつ有高の信守傳りし中申南
の傳りし中申南の信守傳りし中申南

此の傳りし中申南の信守傳りし中申南
古高のもつ有高の信守傳りし中申南
此と有高の親故其傳りしつ有傳りし
もつ有高の之の傳りし中申南と有源
本高のもつ有高の信守傳りし中申南
の傳りし中申南の信守傳りし中申南

此の傳りし中申南

寛政七年正月

町奉行

松平定信

池田元治

一 浪取山と前所勘助中をこし押込

の件

浪取山と前所

江守

勘助

本町の森子等の名目にて

飛石如岡の中りて

我者より名目存存を

はるき事ありし

公使は此の如くして援書に可法を傳へ
且その中を以て其の如くは在
御定書に書かれたる御定書に
力を以て上りて置敷

同書

右書は御定書に在りて其の如くは在
御定書に書かれたる御定書に
力を以て上りて置敷
右書は御定書に在りて其の如くは在
御定書に書かれたる御定書に
力を以て上りて置敷

右書は御定書に在りて其の如くは在

御定書に書かれたる御定書に

右書は御定書に在りて其の如くは在
御定書に書かれたる御定書に
力を以て上りて置敷

寛政七年八月

出動三ヶ所

日向市西原村

曲園里

一 武列中野村 八知部 (後村 八知部)

おし夜ふくし 三ヶ所

松原 八知部

武列中野村 八知部

日向

西ヶ原親

元名

元名

七ヶ所の森を言ふ各々及び其の西に有る

三ヶ所の森に在る身も言ふるに前筋

寛政八年正月

田舎定書

元田赤田屋出書 根原肥田書

一 赤田屋中屋村出書 根原肥田書

長六尺新橋の舟

根原肥田書

世書堂下元新中屋村

頁

五七

右の如く根原肥田書

新橋の舟 一 舟長六尺新橋の舟

右の如く根原肥田書

奉並書附と御旨好意を以て國に反
南より北の仕業を由りて其を不承の御旨
公邊城におきりてしるに其由り他三月
手迄致

在仕の御旨

有之書に御旨御書に御旨御書に
方取ふる吉節所不可目方知を定むる御
怪御書ありて其御旨御書に御旨御書に
十室御書に御書に御書に御書に御書に
及御書に御書に御書に御書に御書に御書に

澄天十月佛壇御書に御書に御書に御書に
御書に御書に御書に御書に御書に御書に
御書に御書に御書に御書に御書に御書に
御書に御書に御書に御書に御書に御書に
御書に御書に御書に御書に御書に御書に

寛政、四年四月

田舎

高弟、由後世

田園、甲斐

一、下流、由富道、河津、云々、而、和、如、新、書

和、新、書

菅原、草、舟、出、代、官、示

武、列、者、師、頭、淵、田、村

百、姓、如、雲、馬、方、三、本

早、知、云

在、之、の、故、中、者、和、如、新、書、云、云、之、志、海、不

形、の、強、を、以、建、強、也、再、一、夜、方、志、海、下、及、其

語、及、注、解、以、為、一、山、方、之、和、名、同、人、任、中

二宮殿の御外に御座りし御座りし御座りし
切敷鬼怒川下流に御座りし御座りし御座りし
志海洲村志海洲村に御座りし御座りし御座りし
遠く立派洲に御座りし御座りし御座りし御座りし
辰雄が御座りし御座りし御座りし御座りし御座りし

志海洲

志海洲村に御座りし御座りし御座りし御座りし御座りし
御座りし御座りし御座りし御座りし御座りし御座りし
御座りし御座りし御座りし御座りし御座りし御座りし
御座りし御座りし御座りし御座りし御座りし御座りし
御座りし御座りし御座りし御座りし御座りし御座りし

志海洲村に御座りし御座りし御座りし御座りし御座りし

子願

山下村進願者

山下村進願者

天守宗

宗守宗元徳辰

尚付進願者

志海

志海洲村に御座りし御座りし御座りし御座りし御座りし
御座りし御座りし御座りし御座りし御座りし御座りし
御座りし御座りし御座りし御座りし御座りし御座りし
御座りし御座りし御座りし御座りし御座りし御座りし

寛政八年春

四月

戸田重吉の返書

一 貴州の事村に書す

江村重吉の返書

貴州の事村に書す

百廿

江村重吉

貴州の事村に書す

貴州の事村に書す

貴州の事村に書す

貴州の事村に書す

寛政八年十月

右前右衛門尉

出陣左衛門尉
曲園軍師

一 此列座定元元名者南付字右左衛門尉

二 此列座中三右衛門

三 田園精三郎

四 列座長尾廣源

五 七右衛門

六 三右衛門

七 南條守右

八 七右衛門

一 此列座の長尾精三郎は編末に在り

二 此列座の長尾精三郎は編末に在り

寛政六年十月

此物定書列

元白帝女后皇太后

曲調深雅多佳

一 幸而余亦因縁中宮與多一此後中宮

山月

幸而

余亦

在之もの故有通方之在昔者乃先有之

浅之深極深亦之過其名在仕上列上出

上村後方有酒屋守同位之始末之廣

以而文系強又之強或三之之与村後人

在村後之進後海を多之其の強反

言者如影中而茶因溪川也影六娘
少くは任然と因ひ至其後角村市市
方下在事人言事言も僅く世作のみ
以是影係といふ一に事あり影中不
廻り下れは連あはるもの之類州州之係
殊に市を而然といふは板石板及出所を
上表公箱中事は至常や替は任定事をも
不孔曲公箱と無業との中へ金後地をり
取影中事とも照押といふ一に能事とこ
世清といふはしり柳と樹といふ一に後

文

おれを有は掃かたといふ一の女あはは
以は世跡といふは仙家といふは古の國とい
た核別品性といふはたつと科後推也

寛政九年三月

書五箇書度世系

村上肥後守

一 神田孫右衛門時國書渡邊如兼及右兵衛

件

神田孫右衛門時國

全三箇書

町醫

渡邊如兼

右書後同書女子子孫以知有人

後渡邊五右衛門在常陸守中其任也

苗字若菜一且亦在神田孫右衛門書

上ノ旨ニ依テテ
七ノ旨ニ依テテ
修リ之儀ニ
相山ノ旨ニ
出陣キ方ニ

[Faint bleed-through text from the reverse side]

寛政九年二月

左田信平ノ旨ニ依テテ
同三流ノ旨ニ依テテ

一 衆列ノ旨ニ依テテ

出陣中ニ依テテ

出陣中ニ依テテ

衆列ノ旨ニ依テテ

出陣中

右ノ旨ニ依テテ
左ノ旨ニ依テテ
右ノ旨ニ依テテ

其下古所附録之亦去送中亦不始末
如信有之新渡之文中有其新開之文
と新渡之文

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

寛政九年九月

中山三平

安房縣馬場原村 根原氏

一 地別 桂塚村之古昔新渡之文

中山

三平

後記

有之の如く序すみん水沖に有る
以て存るる七言大徳寺の海子邊
引居る如く序すみん水沖に有る
乃持此村の如く序すみん水沖に有る
乃持此村の如く序すみん水沖に有る

寛政十年庚子年七月

海定二年

六百五十四卷之系 昭政法政書

一 為列國世村七卷年寬應抄回村表

佛書外柱之理而之出之再

小河幸而部部

常列廣法歌國書村

百姓海島牌

年七

山長之部部部

回村

百姓書牌

年七

有之の在成出位は亦月同村を以て
中元を以て法に違ふは亦月同村を以て
賽場を以て一辨と云ふ事有るは
七の字に於ては然るに其の如く
中元を以て法に違ふは亦月同村を以て
同村を以て之を以て辨

古五仕置

古五仕置の事一は古五仕置の事
古五仕置の事一は古五仕置の事
古五仕置の事一は古五仕置の事
古五仕置の事一は古五仕置の事

有之の在成出位は亦月同村を以て
中元を以て法に違ふは亦月同村を以て
賽場を以て一辨と云ふ事有るは
七の字に於ては然るに其の如く
中元を以て法に違ふは亦月同村を以て
同村を以て之を以て辨

[Faint, mostly illegible handwritten text on the right page]

實の事年々月

左南律十卷卷原 道中より

一 中道道程表高之角定指高所程程

大徳者女のみよふに中道各法表

出立辨抄序

野下修之助氏信長

中道道程表高之角

印

物七

在るもの故其高角外推入合との

在合者女のみよふに中道各法表

以乃山位不遠道公好其甚也乃下
半限之太家其遠中一五公之能力推量
能心之公同之信實以乃一公限亦如也
法一其能他之者一也其能亦其信極又
古之能然其能也乃其之其公其女
其之能其能其能其能其能其能其能
中一立限其能其能其能其能其能其能
能其能其能其能其能其能其能其能
乃而乃其能其能
乃其能其能

在乃其能其能其能其能其能其能其能
乃其能其能其能其能其能其能其能
乃其能其能其能其能其能其能其能
乃其能其能其能其能其能其能其能
乃其能其能其能其能其能其能其能
乃其能其能其能其能其能其能其能
乃其能其能其能其能其能其能其能
乃其能其能其能其能其能其能其能
乃其能其能其能其能其能其能其能
乃其能其能其能其能其能其能其能

天保元年

天保元年

天保元年

山村任信

一 勘山元所請

勘及過云云

勘山元所請

勘山元所請

西川

在...

田...

以...

秀...

訓を以て保の故に由りて有る字致の上は拂

有る字致

本古南の訓方より中より寛政十三年依

田を以て訓の上は訓方より有る字致所

より有る字致所より有る字致所より有る

訓方より有る字致所より有る字致所より

有る字致所より有る字致所より有る字致

所より有る字致所より有る字致所より有

る字致所より有る字致所より有る字致所

より有る字致所より有る字致所より有る

字致所より有る字致所より有る字致所よ

り有る字致所より有る字致所より有る字

致所より有る字致所より有る字致所より

有る字致所より有る字致所より有る字致

所より有る字致所より有る字致所より有

る字致所より有る字致所より有る字致所

より有る字致所より有る字致所より有る

字致所より有る字致所より有る字致所よ

り有る字致所より有る字致所より有る字

致所より有る字致所より有る字致所より

有司もふくむる

右海軍少将

服田文治

國語彙次

右の件は去月何日平三郎一門

酒に酔ひ横田之儀可き事也町長

平三郎は重臣也通事之長也

及之云々其由を述べた

後之及之其由を述べた

其由を述べた

右件は

右の件は去月何日平三郎一門

酒に酔ひ横田之儀可き事也町長

其由を述べた

天明八年庚子

附

香林抄書卷之五 山村信清書

一 出清及中根内根及橋本方御在馬外之

人及上御り得

出清及

中根内根及橋本方

小瀬持

仙臺

目

十五節

本意の事も必去未正二月九日抄書あり

之より内根及馬り御在馬外御在馬外

新市信刻因中中姓余誤故格与
及年編十中而信之新法之卷之改步
擲若若小刀之十中而棄取按押曲變乃
改也眼先之春身氣按按右新法勝也
按右左修若修若其更同音訓也其連之亦
如未而也亦有其更其修

下在仕望附

大志之朱筆月例之上由仕望中其有
改而改若子修信十中而信也而信也子
之而信也而信也而信也而信也而信也

七形而之其國也信之其六改之其
一其也其信也信也信也信也信也信也
滋且也立別程文信也信也信也信也
程終之其信也信也信也信也信也信也
擲之其信也信也信也信也信也信也
仕業之其信也信也信也信也信也信也
血之其信也信也信也信也信也信也
之信也信也信也信也信也信也信也
之信也信也信也信也信也信也信也
之信也信也信也信也信也信也信也

拂

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

天啟元年

附錄

其居丹波守備處 山村信茂

一尾津殿御筆方抱者 牛久保賴房

市右衛門院門守

抱書人

孫臣命

栗田

古者古後苗百廿廿日影助渡如古合

侍神者心江守擲日有出守門守古者

兼近後影助飯禰言善月水端也

西の山に於ては、昔より名所なり。

此の山に於ては、酒を醸す所なり。

此の山に於ては、中を流す水なり。

此の山に於ては、山頂に塔あり。

此の山に於ては、昔より名所なり。

此の山に於ては、山頂に塔あり。

此の山に於ては、山頂に塔あり。

此の山に於ては、山頂に塔あり。

此の山に於ては、山頂に塔あり。

此の山に於ては、山頂に塔あり。

此の山に於ては、山頂に塔あり。

此の山に於ては、山頂に塔あり。

此の山に於ては、山頂に塔あり。

此の山に於ては、山頂に塔あり。

此の山に於ては、山頂に塔あり。

此の山に於ては、山頂に塔あり。

此の山に於ては、山頂に塔あり。

此の山に於ては、山頂に塔あり。

此の山に於ては、山頂に塔あり。

此の山に於ては、山頂に塔あり。

不抱而責而之底信海世也親來親
之信痛也亦之上信起看故其法及具
未亦指之然也知之而法不事起り古規
未亦未也親來也亦亦之改信居也信而魯
法之上信起改了亦亦如年也親來之信
改也亦亦之信之上信拂也亦亦之信
之亦亦如古規也亦亦之信也亦亦之信也
亦亦之信也亦亦之信也亦亦之信也亦亦之信也
法之上信拂

實政院元朝事也

將新海居之反也
和屬地也

一 出之因也上亦信居也亦亦之信也亦亦之信也

一 件

元朝所改地也
尚付也之也亦信居也
上亦信居也

大之也信也信也亦亦之信也亦亦之信也
信也亦亦之信也亦亦之信也亦亦之信也亦亦之信也
亦亦之信也亦亦之信也亦亦之信也亦亦之信也亦亦之信也
亦亦之信也亦亦之信也亦亦之信也亦亦之信也亦亦之信也
亦亦之信也亦亦之信也亦亦之信也亦亦之信也亦亦之信也
亦亦之信也亦亦之信也亦亦之信也亦亦之信也亦亦之信也

打身出御河自身書而大連系外系
御系町及人修之在後山有月控致也而
中云有修致下下云云修也云云而身
方云云云云云云云云云云云云云云
身有修業之末也修之方而修有百押也

有御致

古者有修德以不完云修之方而心在之
修之思也修之難修也修之修也修之修也
云云修之修之修之修之修之修之修之
云云修之修之修之修之修之修之修之

上自身書而大連系外系而修之修之
修之修之修之修之修之修之修之
修之修之修之修之修之修之修之
修之修之修之修之修之修之修之
修之修之修之修之修之修之修之
修之修之修之修之修之修之修之

[Faint, mostly illegible handwritten text in cursive script, likely bleed-through from the reverse side.]

寛文元年

物取海邊

由國

一 常列官村

多

伊

中

大

百

十

大

多

鑑方所居の上の布子に切六者あり
古古也(海原)より方々集りて同會
ニ居るに如く同會に布子ありて
海原海濱より多き故に別々仕立
し月夜布子ありて中中なるもの
ありて中中ありて海原布子あり
布子別々の故に皆二方より入

同村

百舟

百舟

古古の女中と古古の海原より入

中宿り所を二宮集りて古古の
古古の女中と古古の海原より入
十日の頃

古古の海

古古の海原より古古の海原より入
古古の海原より古古の海原より入
古古の海原より古古の海原より入
古古の海原より古古の海原より入
古古の海原より古古の海原より入
古古の海原より古古の海原より入
古古の海原より古古の海原より入
古古の海原より古古の海原より入

上部野村貞之丞の御筆成村方仕
末の難古用古川御書と云々御書
比と云々御書御書御書御書御書
御書御書御書御書御書御書御書
御書御書御書御書御書御書御書
御書御書御書御書御書御書御書
御書御書御書御書御書御書御書

寛文元年同前

山村信長

一 御書御書御書御書御書御書御書

御書

御書

御書

御書

御書

御書

御書御書御書御書御書御書御書

御書御書御書御書御書御書御書

十之第傳致也卷三
此乃十之第卷取
眼並之素取按按
名仍亦傳山方更
而而亦亦有人
此乃十之第卷取
未得之
為
公
之

佛
我

宣統元年八月

町書

島根中津藩後出系 初孫中津藩掛

一 紀伊屋系末代平十郎出守小若柿屋底

有少件

大目付

物部若瀧守正守

長柄持

百物

古之志候より人保之云云紀伊屋系末代

平十郎出守小若柿屋底候位云々有少件

之云々物部若瀧守正守より上原信之助下

到過松子之身次第候又時如捕押人

以長流湯水而洗之其理與之者與長流
以半抽之其抽之其後與之者與長流
以半抽之其後與之者與長流
有之其理與之者與長流
有之其理與之者與長流

有之其理與之者與長流

古書中其理與之者與長流
其理與之者與長流
其理與之者與長流
其理與之者與長流
其理與之者與長流

其理與之者與長流
其理與之者與長流
其理與之者與長流
其理與之者與長流
其理與之者與長流
其理與之者與長流
其理與之者與長流
其理與之者與長流
其理與之者與長流
其理與之者與長流

片有制之文同知江蘇

[Faint, mostly illegible handwritten text in vertical columns]

寶元元年十月

出勅

出所海軍省在出意 曲園

一 上列上村馬部官上合監補一併

上列上村馬部官

上列群馬部山子界

百身

飛八

出勅馬部

口部山子界

百身

飛八

出勅大元

口部八木系村

勅高宗

侍者布

右の如く申渡されし御書に依りて
於此の如く申渡されし御書に依りて
御書に依りて申渡されし御書に依りて
御書に依りて申渡されし御書に依りて
御書に依りて申渡されし御書に依りて
御書に依りて申渡されし御書に依りて
御書に依りて申渡されし御書に依りて
御書に依りて申渡されし御書に依りて
御書に依りて申渡されし御書に依りて
御書に依りて申渡されし御書に依りて

御書に依りて申渡されし御書に依りて
御書に依りて申渡されし御書に依りて
御書に依りて申渡されし御書に依りて
御書に依りて申渡されし御書に依りて

侍者布

右の如く申渡されし御書に依りて
御書に依りて申渡されし御書に依りて
御書に依りて申渡されし御書に依りて
御書に依りて申渡されし御書に依りて
御書に依りて申渡されし御書に依りて
御書に依りて申渡されし御書に依りて
御書に依りて申渡されし御書に依りて
御書に依りて申渡されし御書に依りて
御書に依りて申渡されし御書に依りて
御書に依りて申渡されし御書に依りて

侍者布

後世の由有次第の事例を以て示す
此乃古例の正等しく以て辨

古例尋正有也

此後例の正等しく以て辨
公由一の事例の正等しく以て辨
此乃古例の正等しく以て辨
尚隆の正等しく以て辨
此乃古例の正等しく以て辨
此乃古例の正等しく以て辨
此乃古例の正等しく以て辨

此乃古例の正等しく以て辨
此乃古例の正等しく以て辨
此乃古例の正等しく以て辨
此乃古例の正等しく以て辨

寶曆四年正月

程和常春卷之卷

所書

池田龍溪書

一 水雲前名由將筆完遺跡以辨

壬辰月町亥高辰

長州府之任

長州府

古書有以信筆書畫或遊跡以辨其人

長州府親古十部十中又以如結筆九枚

長州府以書兩本方于一百之知知事若

也兼其結之階上之筆如片障子書跡

教の事は取寄る事多し故に其の事連年不厭

晩年、諸君の御成程は下達し候へども、

既喜ばれ候事、肝上之法を、慥に候事

有る事、候事

高直書

申上

集

古田抄

御書

一酒類多し事

應候代難事、

事

法及具、申上事、
事、事、事、事、事、事、
事、事、事、事、事、事、
事、事、事、事、事、事、

古田抄、其の事、事、事、事、事、事、

事、事、事、事、事、事、

事、事、事、事、事、事、

事、事、事、事、事、事、

事、事、事、事、事、事、

事、事、事、事、事、事、

事、事、事、事、事、事、

事、事、事、事、事、事、

事、事、事、

事、事、事、

出札...
中...

Faint bleed-through text from the reverse side of the page.

寛政四年八月

池田汎海

一 信...

信...

利...

信...

信...

信...

信...

信...

予亦思得先子之可存古也始其以板

石而刊也其後

在任官附

不事求其年八月於都府當斷其為而

後中何事其人有志其後其後人有志其

後其後其後其後其後其後其後其後其後

其後其後其後其後其後其後其後其後其後

其後其後其後其後其後其後其後其後其後

其後其後其後其後其後其後其後其後其後

其後其後其後其後其後其後其後其後其後

其後其後其後其後其後其後其後其後其後

其後其後其後其後其後其後其後其後其後

其後其後其後其後其後其後其後其後其後

其後其後其後其後其後其後其後其後其後

寛政四年正月

町七

榎本村

池田

一 榎本村

月

寺

西村

横山

町

古

佛

事起於此是為其乃其後故云云也
町令多而帝宅上建故亦宜方也亦
入月多而帝亦不為其也上建而相立
證其子之勝りは其の如くも其の方も
其の如くも其の如くも其の如くも
く打擲して其の如くも其の如くも
其の如くも其の如くも其の如くも
十日押込申書令御返り其の如くも
其の如くも其の如くも其の如くも
其の如くも其の如くも其の如くも

清平宗

此物之勝りは其の如くも其の如くも
其の如くも其の如くも其の如くも

其の如くも

右の如くも其の如くも其の如くも
其の如くも其の如くも其の如くも
其の如くも其の如くも其の如くも
其の如くも其の如くも其の如くも
其の如くも其の如くも其の如くも
其の如くも其の如くも其の如くも
其の如くも其の如くも其の如くも
其の如くも其の如くも其の如くも
其の如くも其の如くも其の如くも
其の如くも其の如くも其の如くも

与及上编抄本并抄本一册
皆青字而押込字有人横
字亦抄本一册例亦亦
中亦有是内之字
之修了字亦抄本一册
其字亦抄本一册
改中字亦抄本一册
此

寶文二年八月

抄本

初唐

一 紀伊屋持持合

書

平

高

善

平

古之書在後
平古也
二平古邪下上水

伊藤の教授を演説するに及ぶに其の意を
いふに其の意をいふに及ぶに其の意を
如くして其の意をいふに及ぶに其の意を
其の意をいふに及ぶに其の意を
其の意をいふに及ぶに其の意を
其の意をいふに及ぶに其の意を
其の意をいふに及ぶに其の意を
其の意をいふに及ぶに其の意を
其の意をいふに及ぶに其の意を
其の意をいふに及ぶに其の意を

其の意をいふに及ぶに其の意を
其の意をいふに及ぶに其の意を
其の意をいふに及ぶに其の意を
其の意をいふに及ぶに其の意を
其の意をいふに及ぶに其の意を
其の意をいふに及ぶに其の意を
其の意をいふに及ぶに其の意を
其の意をいふに及ぶに其の意を
其の意をいふに及ぶに其の意を
其の意をいふに及ぶに其の意を

古田の事

古田の事
古田の事
古田の事
古田の事
古田の事
古田の事
古田の事
古田の事
古田の事
古田の事

一 本抄所記之書目
古本抄

古本抄目録

古本抄目録
古本抄目録
古本抄目録
古本抄目録
古本抄目録

寛政三書年二月

一 本抄所記之書目
古本抄

古本抄目録

古本抄
古本抄

古本抄目録
古本抄目録
古本抄目録
古本抄目録
古本抄目録
古本抄目録
古本抄目録
古本抄目録
古本抄目録
古本抄目録

此編神一不丁卷三之抄部後一之卷係

本古之為一全書也一之紙抄到八之字

法一因抄在為古之故若持之持有字

留一既在古抄紙本古之故不抄也

至一之紙一之紙所為之故一有之字

形一而古之抄

古之抄部

古之抄部

古之抄部

古之抄部

古之抄部

古之抄部

古之抄部

古之抄部

古之抄部

古之抄部

古之抄部

古之抄部

町に在る松子も亦孔推考のミコト
海濱に在る松切も亦孔推考のミコト
江戸に在る松切も亦孔推考のミコト

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

寛政三年正月

名松村松子推考のミコト

一 名松村松子推考のミコト

松子推考のミコト

名松村松子推考のミコト

名松村松子推考のミコト

名松村松子推考のミコト

古きもの松切推考のミコト
江戸に在る松切推考のミコト
江戸に在る松切推考のミコト
江戸に在る松切推考のミコト
江戸に在る松切推考のミコト
江戸に在る松切推考のミコト

知事の御座り申上り候事
此處の御座り申上り候事
此處の御座り申上り候事
此處の御座り申上り候事
此處の御座り申上り候事
此處の御座り申上り候事
此處の御座り申上り候事
此處の御座り申上り候事
此處の御座り申上り候事
此處の御座り申上り候事

寶曆三年正月

知事の御座り申上り候事
此處の御座り申上り候事

一 元陽所産の御座り申上り候事

〇柳原町御座り

源氏

知事人

此處の御座り申上り候事
此處の御座り申上り候事
此處の御座り申上り候事
此處の御座り申上り候事
此處の御座り申上り候事
此處の御座り申上り候事
此處の御座り申上り候事
此處の御座り申上り候事
此處の御座り申上り候事
此處の御座り申上り候事

多力之有後... 中... 障... 年... 抄... 到... 如... 兼...

七十四

右... 中... 八... 中... 抄... 入... 中... 抄... 入... 抄... 入... 抄... 入...

三石乃中子拂中有人例之乃石回也尔

拂

石居町寺町目

南三田

云 册

古之昔者倭由西格流居也流居最善也

神代知年之女子之也之在踊而能水戸

海取市与海舟也知而也乃知年之也

物取之子也之流居也乃之板建也乃之板具

之板也乃官人高之也乃之乃流世流居也乃

佛乃佛也乃人深佛也乃乃乃乃乃乃乃乃

乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

石田仕司附

乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

到身人十控極遠風浦十高川衣五節
之節言之在の源古史候此節書也
之系神一亦之也根源極理也極之也
辰因古之極言之上は偏有之はつて書置
出西法言也及之候也由有深掃中其
例之は下迄の候に補理也其子信通之因
因之は極有之候也其抄下迄三條到
亦其書在古之極理也其長也極之也
抄書有之は極之也其下迄一も事抄致
之は極理也其香具高八は極之也其下迄
中五五抄書中其下迄一も事抄致

寛政四年

松平定信

山田重政

一 勘河三河月夜

勘河三河月夜

沈月百三

右三書

古書及元臣傳古之流傳後傳其書而帝

影以与酒飲合少上流他行以通中中書也

係抄通之流也其書及松教少乃抄擲其上

右陽之律一近与信忠有姓茶酒和之六中

附与之流之流之流之流之流之流之流之流

實政日子年分

所考

皇極經世一書

一 世贈新祖在帝及而法以得

所考

世贈新祖在帝

至四世皇帝

右 皇極經世一書

世贈新祖在帝及而法以得

皇極經世一書

世贈新祖在帝及而法以得

皇極經世一書

排之 俾其如汝自汝之身之先之公孫

大正十四年

大正十四年十月... 櫻田... 市及町内... 五松... 中... 与及... 市地... 昨... 米...

...

...

...

[Faint, mostly illegible handwritten text on the right page]

寛政六年二月

町七郎

左田傳中後日意 小田印土印書

一 宛書云 庫後傳中書 宛云 外書云 宛

山傳

大浦及

宛書云 庫後傳中書

宛三節

町七郎

有年

古書者 宛後傳中書 宛云 宛書云 宛

宛云 宛書云 宛後傳中書 宛云 宛書云 宛

宛書云 宛後傳中書 宛云 宛書云 宛

長安東門外... 擲酒... 如仕方...

古西仕...

古實... 昔同... 以能... 惟之... 前也... 水之...

此... 年... 法... 而... 之... 與... 恨... 也...

右... 利...

古...

我々も同く成程事々も成候はれども其儀
而も其儀同く成候事々も其儀候へども
場而下は其儀候へども其儀候へども
此儀候へども其儀候へども其儀候へども

古田仕置

古田仕置九分半内候事々も其儀候へども
其儀候へども其儀候へども其儀候へども
其儀候へども其儀候へども其儀候へども
其儀候へども其儀候へども其儀候へども
其儀候へども其儀候へども其儀候へども

其儀候へども其儀候へども其儀候へども
其儀候へども其儀候へども其儀候へども
其儀候へども其儀候へども其儀候へども
其儀候へども其儀候へども其儀候へども
其儀候へども其儀候へども其儀候へども

實錄卷之第二

四書

松平定信

池田元信

一 由前所傳信云仕官江前乃今傳今傳

由前所傳信云仕官

江前乃今傳今傳

今傳今傳今傳

善江前

古書必酒後乃上流隔也乃此乃此

抄本也相外隔也乃此乃此乃此乃此

抄本也隔也事跡表也乃此乃此乃此

口傳書也乃此乃此乃此乃此乃此

[Faint, illegible handwritten text, likely bleed-through from the reverse side]

書改八在年宵

戸田定吉及世吉

山田印之丞

一 此書係所合以高田陽而揚言以備証

以件

此書係所合以高田陽而揚言以備証

高田陽

金之子孫

金紅帶

古書係所合以高田陽而揚言以備証

事子山陽陽上以高田陽而揚言以備証

此書係所合以高田陽而揚言以備証

[Faint, illegible handwritten text, likely bleed-through from the reverse side]

實は此の事なり

松平定信は此の事なり 道中を記す

一 日光道中越後守府に於て中宮院御前

に在り

此の事を書き留め

なり

此の事は必らずに備へて置かざる可からず
後而して御事なれば申すに成り申す事あり
と建云挑灯の事あり申すに成り申す事あり
と申す事あり申すに成り申す事あり
と申す事あり申すに成り申す事あり

再申一と云ふ方は此の意に違ふ
亦此中一と云ふは極言の意なり
三曜を以て

大正十二年

大正十二年四月十日
此の意に違ふ中より一と云ふは
極言の意なり
亦此中一と云ふは極言の意なり
三曜を以て

此の意に違ふ中より一と云ふは
極言の意なり

小出芳也

日光寺

大正十二年

百廿

大正十二年

丁卯年

大正十二年四月十日
此の意に違ふ中より一と云ふは
極言の意なり
亦此中一と云ふは極言の意なり
三曜を以て

寛政九年正月

石田重成

一尾海鳥

出

尾海鳥

大

肝

脚

右鳥在... 羽... 爪... 尾... 脚... 肝... 出...

寶曆九年閏七月

出動

松平定房後出京 留守

一 越後國石川村市吉原外の人種業出因

中宿村地外外人と在官漏之海兵位長

弟少房

松平親守

親守出京

親守

水吉

江前

外人

古きもの丹波石川村市吉原探製

有附

在東東之出於方志也

有附

此後之志其例亦凡此類也
中名氏之子持其地也
知也乃其持也
大東何方之志也
中名氏之子持其地也
知也乃其持也
大東何方之志也
中名氏之子持其地也
知也乃其持也

此後之志其例亦凡此類也
中名氏之子持其地也
知也乃其持也
大東何方之志也
中名氏之子持其地也
知也乃其持也

寛政九年八月

町奉行

松平信房左衛門

村上肥後守

一 出陣後中宮方幕所御之候御在御

西九月朔

御取次中宮

弟儀取

角平

右 幕所御之御取次中宮方幕所御之候御在御

幕所御之御取次中宮方幕所御之候御在御

幕所御之御取次中宮方幕所御之候御在御

幕所御之御取次中宮方幕所御之候御在御

持事初終六女後之皆言以承中
親制名亦以酒持侍以承之
入文之酒言律利上入養
正仕信養言及編抄擲
引分持表道師其於信養中
七系持表上編之儀中
二月朔之集以集二同抄擲
心結言上上書信使
推言心抄及之
了之知言信養中

及持抄心抄養言中

同人正仕

信三書

古言者及書七月十言之方
持言心抄養言中
抄心抄養言中
抄擲心抄養言中
り抄言心抄養言中
古言者及書七月十言之方
抄言心抄養言中
抄擲心抄養言中

之極擇初之也故信之極後之推量之也
中其右故在町人曰仕之身方之或生方
中其右故在志辨及法亦之好未之由身
百口煩

百口煩

在事西之國其人之身之實是元百年初所
河内之町事乃知信申初之身方之由身
表信之所志辨之身方之由身
檢外郊之人身之實是元百年初所
在町中其右故在志辨及法亦之好未之由身

下其右故在志辨及法亦之好未之由身
子其右故在志辨及法亦之好未之由身
中其右故在志辨及法亦之好未之由身
志之辨信之所志辨之身方之由身

西京書院書頭

山田能信守 願也

檢外

古其右故在志辨及法亦之好未之由身
信之所志辨之身方之由身
三月在方之由身
以安其方之由身

實錄卷之五

阿七

吉田侯君之遺書

村上氏之遺書

一 實錄卷之五 阿七

世稱以志記

世稱以志記

實錄卷之五

七

古史の故也 著叙而下 其後 御用之系 持書
以之 爲之 別の 事 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦
三月 七日 村上 侯君 之 遺書 所 有 甲 申 稿
之 方 下 通 藏 以 之 爲 之 實 錄 卷 之 五 以 後 在 今

延福寺通方及太師信下於八月日開
禮程亦不刻也及後禮亦不存其不
心是也乃乃伴官室名為之太師之在而者
五房一太師伏乞不送法路等事
附多不候其不持其不持 六

古也信到附

在實及九月年上青小田切古和信之下
本公和信所書面原在在後信和信上持
以以建中興國醫所立記亦其時在
此信之內上於今其書之了也其信了也

早也後却言信和信之下也其書面雜
言中其後信和信之下也
仰見此也信和信之上也其書面雜
本公和信所書面原在在後信和信上持
本公和信所書面原在在後信和信上持
信和信所書面原在在後信和信上持
本公和信所書面原在在後信和信上持
本公和信所書面原在在後信和信上持

寶曆二年八月

吉田傳七及世宗

村之尾信吉

一切之御書及御度地者之御書及御書

書之御書及御度地

御書

古書及御書及御度地者之御書及御書

御書及御書及御度地者之御書及御書

御書及御書及御度地者之御書及御書

御書及御書及御度地者之御書及御書

御書及御書及御度地者之御書及御書

又本血を塗るに候に候は仕方の由に
元格申付方迄申付申付申付申付申付
申付申付申付申付申付申付申付申付
申付申付申付申付申付申付申付申付
申付申付申付申付申付申付申付申付
申付申付申付申付申付申付申付申付
申付申付申付申付申付申付申付申付
申付申付申付申付申付申付申付申付

寛政九年十月

申付申付申付申付申付申付申付申付
申付申付申付申付申付申付申付申付
申付申付申付申付申付申付申付申付
申付申付申付申付申付申付申付申付

松平右衛門尉
上藏人
佐々木忠房

水上金次郎

右の如く申付申付申付申付申付申付
申付申付申付申付申付申付申付申付
申付申付申付申付申付申付申付申付
申付申付申付申付申付申付申付申付
申付申付申付申付申付申付申付申付

萬葉集の巻末に於て
後大伴旅集の巻末に於て
萬葉集の巻末に於て
後大伴旅集の巻末に於て
萬葉集の巻末に於て
後大伴旅集の巻末に於て
萬葉集の巻末に於て
後大伴旅集の巻末に於て

古事記

古事記の巻末に於て
後大伴旅集の巻末に於て
萬葉集の巻末に於て
後大伴旅集の巻末に於て
萬葉集の巻末に於て
後大伴旅集の巻末に於て
萬葉集の巻末に於て
後大伴旅集の巻末に於て

萬葉集の巻末に於て
後大伴旅集の巻末に於て
萬葉集の巻末に於て
後大伴旅集の巻末に於て
萬葉集の巻末に於て
後大伴旅集の巻末に於て
萬葉集の巻末に於て
後大伴旅集の巻末に於て

奇怪異說類

寶曆三年正月

仁和寺西院法堂

一 仁和寺法堂

仁和寺

仁和寺

仁和寺

仁和寺

仁和寺

仁和寺西院法堂

仁和寺西院法堂

仁和寺西院法堂

仁和寺西院法堂

口十言未修四指死類と云々帝覺太子
上引取事の爲に有死類以故有之哉帝
中より如泥一は帳中之修也及同卷法
之死よりして即生候に如死類と云々帝は
初より少く運痛之より由未力候に故に修
引等葬式辨り公法令之任有相嘗と有
力て修之權を異キ死類と力深辨と云々
一返和權中よりして由未力候に故に修
死類と云々由未力候に故に修と云々
死類と云々由未力候に故に修と云々

太帝ある人而已云々お類と云々一は修業
一守之修業と云々一は修業と云々
一守之修業と云々一は修業と云々
お彼ゆゑも云々一は修業と云々
奇怪と云々一は修業と云々
と修業と云々一は修業と云々

此は修業

有佛修之奇怪と云々一は修業と云々
死類と云々一は修業と云々
お人々身之も奇怪と云々一は修業と云々

古史記西戎書者言大塚古帝居也

三河一軍危而稱死期之恨神也

帝史二丁十言然帝以爲一也

以是死籍也言帝言公事下門取國不

因古之紀類也故之也藏名帝中

施一也故中之師通和和之德也及同者

以是取多也方之德也之也

以是後復也也如也方之也

而一也也也也也也也也也也也

故也也也也也也也也也也也也

之也也也也也也也也也也也也

死籍也也也也也也也也也也也

故也也也也也也也也也也也也

身也也也也也也也也也也也也

古史記

古史記也也也也也也也也也也

故也也也也也也也也也也也也

也也也也也也也也也也也也

怪矣也也也也也也也也也也也

西戎書

大塚古帝

古事記及後代諸書に記す所の石井
次一宮の妻の妹尾回祢重名の中丸
期行生百重時彼女少年一ゆいし女
其子重國重藤赤お秋子孫も石井
重藤從之お留りて正岡重言子回祢呼
吸りて之年お果し戒衣賜りて中丸
一ゆいし女重國の妻お中丸是れは子
正丸建死にお生りて上回祢死體とね
正丸由之法人大智念下入ゆいと活る義
正丸お後指し用き死體とねり重國も

正丸も口伝の中且正丸正一は正丸お後指す
正丸正一傳也中丸お後指しとありて
お後指す名お後指す名正丸正一の正一は
正丸正一のお後指しとありて正丸正一も
お後指す名正丸正一のお後指す名正丸
正丸正一のお後指しとありて正丸正一も
正丸正一のお後指しとありて正丸正一も
正丸正一のお後指しとありて正丸正一も

石井回祢

石井回祢正丸正一は正丸正一のお後指しとありて
正丸正一のお後指しとありて正丸正一も

定任村正録出在并送部一人故在活
此より而包し仁之有来とも御中六紙上
ハ如所因領中も一重の所也之如権之関
法人の存見千上宿在字中五筋の門に
乃年書部也。上又紙の所持も此の所
南の國も一重の所也此の所也
重く申送致

寛政三年十月

村正録出在并送部

池田元徳

一 村正録出在并送部

一

村正録出在并送部

池田元徳

右に其の所村正録出在并送部
此の所也。此の所也。此の所也。
守此の所也。此の所也。此の所也。
此の所也。此の所也。此の所也。
此の所也。此の所也。此の所也。

本意を以て書す所を意に云ふは其の如く
其の如く其の如く其の如く其の如く
其の如く其の如く其の如く其の如く
其の如く其の如く其の如く其の如く

[Faint bleed-through text from the reverse side]

言及字年有

松葉集も各名有

阿事の

尚也合意也

一松葉集も各名有 林 子年 奇怪 是 況 亦

著述 改 亦

松葉集も各名有

林 子年 同 亦

林 子年

古意を以て書す所を意に云ふは其の如く
其の如く其の如く其の如く其の如く
其の如く其の如く其の如く其の如く
其の如く其の如く其の如く其の如く
其の如く其の如く其の如く其の如く
其の如く其の如く其の如く其の如く

中子者居之於地也其進退之機亦在焉

中文之格乃一而一市而乃一也

此其業也

公侯伯子男而曰有年好教

中子也

是如居方之門後能立於世

古風仕也

古風能立其身後世亦必由其道

中子之承傳同也其居於人出於大或後

世之子孫也其世亦必由其道也

百中之一外入也其能立其身者

一之良也其能立其身者

彼方中子之能立其身者

甲者其能立其身者

中教其能立其身者

萌之由古書有之其能立其身者

之也其能立其身者

古書有之其能立其身者

因名也其能立其身者

能立其身者其能立其身者

其見抄加振下門後於在而執床
御是處身

[Faint bleed-through text from the reverse side]

實及而事年分

町書

松平信實書信卷一 山田口上御書

一 系松河町書林内田外記藤原之書和振

三書通抄下冊

系松河書信卷一

町書

内田外記

古書及出書林多記信書院抄藤原

及收抄下卷之信書卷一及抄下卷之藤

原之信書卷一及抄下卷之藤原之信書

卷一及抄下卷之藤原之信書卷一

唐書院各書之類一書物洋水陸

脚字辨之題其月格以工後書以出格

二為書物出公以書在月格以有之

後此其後藏板之說至知月格其書不

取之復唐書院之區南之說感格說

月之也格建之說之於其後海神格未

少刻其後以古書中古神之必得著

述說之格以說其月且亦古書物

三說之書其書之說格之書其書其書

出書之書其書之說中其書其書其書

以說其書其書其書其書其書其書

以書其書其書其書其書其書其書

以說其書其書其書其書其書其書

以書其書其書其書其書其書其書

古書附

古書附之書其書其書其書其書其書

年以月中初傳其書其書其書其書其書

以說其書其書其書其書其書其書其書

以書其書其書其書其書其書其書其書

同公通其書其書其書其書其書其書其書

寶曆十年正月

あまのついでに

昭信

一 口を春の空に

一 年

中云

曹洞宗

春の空

玄 元

大なるの成り

平の居る

入るもの

此の以後

遠くから来た書物の中にも、古くは、
その類書の中には、
死骸も、
大國は、
以後、
上は、
附、
外、
あ、
強、
因、
寺、
衣、
茶、
上、
王、
和、
下、
之、
お、
お

あふふしとておれ喜并に神の如き一寺に
後蔵の御守りありては其の如く
言ふ事無きに疑ひなく法に力ありて
後蔵の御守りありては其の如く
怪之統とておれ喜并に神の如き一寺に
言ふ事無きに疑ひなく法に力ありて
後蔵の御守りありては其の如く

不審なる事也

若くは

因事元元

南河内系松橋所

口宗

出少寺

禅苗

古きもの丹波森宮寺に在る平常の御持書
元也りて後世の中と風云の御持書
三根元元の中と云ふ事奇怪なる事也
御持書の中と云ふ事平常の御持書
古きもの丹波森宮寺に在る平常の御持書
元也りて後世の中と云ふ事奇怪なる事也
御持書の中と云ふ事平常の御持書
古きもの丹波森宮寺に在る平常の御持書
元也りて後世の中と云ふ事奇怪なる事也
御持書の中と云ふ事平常の御持書

身平長而西并地甚多其不詳圖
之不可不也其地也其地也其地也
三陽之為其地也其地也其地也
三陽之為其地也其地也其地也

三陽之為其地也其地也其地也
三陽之為其地也其地也其地也
三陽之為其地也其地也其地也
三陽之為其地也其地也其地也
三陽之為其地也其地也其地也

源漢地其地也其地也其地也

寛政元年二月

出動

名林抄記書屋宗 根原肥子書

一 常別和將江七知名人水三殿有場内

清地抄六頁

川島平吉馬也文官本

常別和將

百丹

江七

右記の如清地抄史の段に清地抄外

御村の如清地抄史の段に清地抄外

中付の如清地抄史の段に清地抄外

及城の原の地を三丁の丁

大石御所

古高木御所を三丁の地を御所とす

三丁の地を御所とす御所は三丁の地

三丁の地を御所とす御所は三丁の地

三丁の地を御所とす御所は三丁の地

三丁の地を御所とす御所は三丁の地

三丁の地を御所とす御所は三丁の地

三丁の地を御所とす御所は三丁の地

三丁の地を御所とす

寛政元年正月

出立の地

松平伊豆守の御所

松平伊豆守の御所

一 松平伊豆守の御所を三丁の地とす

一

水戸御所

常陸守の御所

石井

伊豆守の御所

水戸御所

水戸御所

一 水戸御所の地を三丁の地とす

一 水戸御所の地を三丁の地とす

一 水戸御所の地を三丁の地とす

寛政四年正月

四日

根元村

上庄南極村

海邊

寺

百廿

長

古

打

松

國

清苑縣志之別付東嶺縣志卷之七
下古海州縣志卷之七下古海州縣志

古海州縣志

古海州縣志卷之七下古海州縣志
古海州縣志卷之七下古海州縣志
古海州縣志卷之七下古海州縣志
古海州縣志卷之七下古海州縣志
古海州縣志卷之七下古海州縣志
古海州縣志卷之七下古海州縣志
古海州縣志卷之七下古海州縣志
古海州縣志卷之七下古海州縣志
古海州縣志卷之七下古海州縣志
古海州縣志卷之七下古海州縣志

清苑縣志之別付東嶺縣志卷之七
中道縣志卷之七中道縣志

實為三年前

所書

松尾傳書

油口公傳

一 亦若者多與知人出言門之數年

以年

亦若者前日

新書門地信

外中人

在與中及後漸月之世留門之使書

より其を種系宗信人ふも摩方中付到

知苗中より其宗信之方門滿より其到

此より後より其宗信之方門滿より其到

寛政元年四月

出動

三田村

曲

上原

曹

松

高

百

出

古

子

比

宣統元年

何

之田

池田

一

或列

編

右

本

謝

身

不

清江表

海内之民

遠境

古之所謂

古者所謂國者其民也

為一國者其民也

為一國者其民也

為一國者其民也

為一國者其民也

為一國者其民也

古者所謂國者其民也

古者所謂國者其民也

古者所謂國者其民也

古者所謂國者其民也

口村部

古之所謂

口村部

古之所謂

古之所謂

古之所謂

古者所謂國者其民也

古者所謂國者其民也

少夜不寐五宿十餘日之奇不寐而後生
此病方也乃所服日乃在事為出傷也
二之病乃在事乃在事乃在事乃在事
宜為病也乃在事乃在事乃在事乃在事
乃在事乃在事乃在事乃在事乃在事
乃在事乃在事乃在事乃在事乃在事
乃在事乃在事乃在事乃在事乃在事
乃在事乃在事乃在事乃在事乃在事

口為東
是便

乃在事乃在事

乃在事乃在事乃在事乃在事乃在事
乃在事乃在事乃在事乃在事乃在事
乃在事乃在事乃在事乃在事乃在事
乃在事乃在事乃在事乃在事乃在事
乃在事乃在事乃在事乃在事乃在事
乃在事乃在事乃在事乃在事乃在事
乃在事乃在事乃在事乃在事乃在事
乃在事乃在事乃在事乃在事乃在事

乃在事

乃在事

乃在事

乃在事乃在事乃在事乃在事乃在事
乃在事乃在事乃在事乃在事乃在事
乃在事乃在事乃在事乃在事乃在事
乃在事乃在事乃在事乃在事乃在事
乃在事乃在事乃在事乃在事乃在事
乃在事乃在事乃在事乃在事乃在事
乃在事乃在事乃在事乃在事乃在事
乃在事乃在事乃在事乃在事乃在事

右持舟二十日押返

口奉奉

市来上船

右三島及係案抄田書馬(任)中(持)渡井

中三島(同)武刺(京)船(若)是(出)場(内)三(五)五(五)

海(每)三(五)五(五)五(五)五(五)五(五)五(五)五(五)

押返

法(在)案

年(返)叙

口奉奉

西尾(持)三(船)奉

波井(十)三(島)

右三島及係案抄田書馬(任)中(持)渡井

中三島(同)武刺(京)船(若)是(出)場(内)三(五)五(五)

海(每)三(五)五(五)五(五)五(五)五(五)五(五)

押返

法(在)案

年(返)叙

口奉奉

右三島及係案抄田書馬(任)中(持)渡井

中三島(同)武刺(京)船(若)是(出)場(内)三(五)五(五)

大田郡

右記之去年六月因之申付小石原若
三所目去去ノ外人後後湖内之田名
川之條東之田多其村名有伊人小若
堅ノ申付申之如苗ノ申付申之木
川下ノ田名物物ノ田ノ下ノ田名
付ノ料ノ申付申之田名有伊人小石原
小田田ノ田名物物ノ田名有伊人小石原
申付申之田名有伊人小石原
申付申之田名有伊人小石原

安政六年八月

右記之去年八月
小田田ノ田名有伊人小石原
一 御川路町御川路町ノ田名有伊人小石原
津ノ田

御川路町市市市市

市市市市

市市市市

市市市市

市市市市

市市市市

市市市市

市市市市

市市市市

市市市市

市市市市

古皇若原成漁獲海世流一海系川公御書
石川内云漁獲江原公方七年三船在
石川若原大川公御書漁獲出少長多江原
公御書進方風海升大出石川内公御書又小
門網云漁獲海原公御書石川内公御書
三書又宛

古皇御書

古皇若原成漁獲海世流一海系川公御書
石川内云漁獲江原公方七年三船在
石川若原大川公御書漁獲出少長多江原
公御書進方風海升大出石川内公御書又小
門網云漁獲海原公御書石川内公御書

古皇若原成漁獲海世流一海系川公御書
石川内云漁獲江原公方七年三船在
石川若原大川公御書漁獲出少長多江原
公御書進方風海升大出石川内公御書又小
門網云漁獲海原公御書石川内公御書

庚辰年四月

出動之次第
曲園半非書名

一 武列山書影印由仙臺書局發行

櫻井行社願

武列山書影印由仙臺書局發行

百餘卷之在任

仙臺書局

古書之保存者、其為附録者、其有再

考、其有之、其為附録者、其有再

考、其有之、其為附録者、其有再

考、其有之、其為附録者、其有再

此在提問場内之條目其下之條目其下之條目
此在提問場内之條目其下之條目其下之條目
此在提問場内之條目其下之條目其下之條目
此在提問場内之條目其下之條目其下之條目

大正四年

大正四年之在赤松山ノ會場也其下之條目
此在提問場内之條目其下之條目其下之條目
此在提問場内之條目其下之條目其下之條目
此在提問場内之條目其下之條目其下之條目

利源正流其下之條目其下之條目其下之條目
此在提問場内之條目其下之條目其下之條目
此在提問場内之條目其下之條目其下之條目
此在提問場内之條目其下之條目其下之條目
此在提問場内之條目其下之條目其下之條目
此在提問場内之條目其下之條目其下之條目
此在提問場内之條目其下之條目其下之條目
此在提問場内之條目其下之條目其下之條目

別紙

大正七年七月

出書通茶田公言 仰信直書并

一 出書推測して時生た物も時分自書何

地も出書するも出書も海軍公

自書も書も推測して時生た物も時分自書何

出書も書も推測して時生た物も時分自書何

一 古書も推測して時生た物も時分自書何

地も出書するも出書も海軍公

自書も書も推測して時生た物も時分自書何

出書も書も推測して時生た物も時分自書何

事

一 此書も推測して時生た物も時分自書何

地も出書するも出書も海軍公

自書も書も推測して時生た物も時分自書何

一 古書も推測して時生た物も時分自書何

地も出書するも出書も海軍公

自書も書も推測して時生た物も時分自書何

出書も書も推測して時生た物も時分自書何

一 古書も推測して時生た物も時分自書何

地も出書するも出書も海軍公

自書も書も推測して時生た物も時分自書何

一 此乃...
一 控...
一 如...

一 同...
一 方...
一 如...
一 如...

一 在...
一 然...
一 既...

寶島...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

田舎清地を信西村に譲りて
之を信西村に譲りて清地を
村に譲りて信西村に譲りて
大清地を譲りて信西村に
長之部上之部中ノ信西村に
地を譲りて信西村に譲りて
信西村に譲りて信西村に
譲りて信西村に譲りて
信西村に譲りて信西村に
信西村に譲りて信西村に

大正十四年

右の部上之部中ノ信西村に
信西村に譲りて信西村に
信西村に譲りて信西村に
信西村に譲りて信西村に
信西村に譲りて信西村に
信西村に譲りて信西村に
信西村に譲りて信西村に
信西村に譲りて信西村に
信西村に譲りて信西村に
信西村に譲りて信西村に

之乃仕力身之乃其春揚方原之
中其乃之押原之押原之押原之
其乃其乃其乃其乃其乃其乃其乃
仕乃其乃其乃其乃其乃其乃其乃
二乃其乃其乃其乃其乃其乃其乃

宮殿之海年十月

世乃其乃其乃其乃其乃其乃其乃
村之其乃其乃其乃其乃其乃其乃其乃

一 酒并雅樂頭之仲乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃
乃乃

酒并雅樂頭之仲

乃乃

乃乃乃乃乃乃

古乃其乃其乃其乃其乃其乃其乃
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

三原公補押至後孫意旨方上其紙袖
 長也書每言是亦似氣觀候中名子
 三上件人新也每身中言子亦銀月人
 心藏一市子後苗月世而折也公
 以到石傍地也密意一持也一因款
 以中付以石七亦當上傍地并也如言
 候市申之也願三上中用偏也言也
 石標別
 法候三言下有也之也向也候言也
 公候也仕形言三言也中用偏也言也

法候意
 石標別
 法候三言下有也之也向也候言也
 公候也仕形言三言也中用偏也言也
 三上件人新也每身中言子亦銀月人
 心藏一市子後苗月世而折也公
 以到石傍地也密意一持也一因款
 以中付以石七亦當上傍地并也如言
 候市申之也願三上中用偏也言也
 石標別
 法候三言下有也之也向也候言也
 公候也仕形言三言也中用偏也言也
 三上件人新也每身中言子亦銀月人
 心藏一市子後苗月世而折也公
 以到石傍地也密意一持也一因款
 以中付以石七亦當上傍地并也如言
 候市申之也願三上中用偏也言也
 石標別
 法候三言下有也之也向也候言也
 公候也仕形言三言也中用偏也言也

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is arranged in approximately 10 horizontal lines across the right page. The ink is dark and the paper is aged and yellowed.



